

染色作品と展示形式

大阪芸術大学 工芸学科 准教授 舘 正明

染色作品は支持体となる布に描画材料の染料が染まり成り立っている。その布をここでは「染色布」と呼ぶことにする。染色布を作品として展示する際、どのような形式で仕上げるかは作品の出来を左右する大きな問題と考えている。私は蠟染めの技法を用いて、蠟の防水性や染料の浸透性など素材が持つ特性を駆使した制作をしており、そうした染色布を木製のパネルにテンションをかけた状態で接着し展示している。この形式を「パネル張り」と呼ぶが、私はこのパネル張りが染めた布の内容（色、形、テクスチャなど）を見せるために最適だと考えている。それは布に生じるしわやたるみなど染色した色、形以外の要素を全て排除できるからである。しかし、多くの染色家やテキスタイルアーティストがパネル張りだけで染色布を展示しているのではなく、タピスリーや屏風などに仕立てられたもの、染色布を壁面にピンで打ちつけた展示なども見られる。また教育の場においても制作したものをひとつの形式に完結させることは、多様な価値観の中で学習、生活を続けている現在の学生にとって有意義ではないと考える。制作者、教員として、染色布の多様な展示形式を研究、経験することが必要だと考え本研究はスタートした。パネル張りやタピスリー、屏風など、さまざまな形式で展示される染色作品にはどのような特徴があり、その形式にするためにはどのような制作方法、事前準備などの必要があるか、を研究するため、それぞれの形式で実際に作品制作を行った結果を報告する。

・タピスリー (tapestry)

タピスリーは染色布の上部を折り返して縫い、ワイヤーやテグスなどを取り付けた直径 10~20mm 程度のステンレスパイプなどを通し、壁面または天井から染色布を吊り下げる方法である。この展示形式は布一枚をシンプルに展示でき、布本来の軽やかさや柔らかさを見せられるメリットがある。しかしその反面、仕上げ方によっては染色布にしわやたるみが生じ、作品の内容を損ねた展示をしばしば見かける。タピスリーの形式で展示するためには制作段階から不用意な布の伸びなどが生じない工夫が必要と考え、本研究では布の伸びが生じにくい道具の使用を行った。染色する際は張り木、伸子と呼ばれる道具で布を経糸方向、緯糸方向に張って制作する。緯糸方向に布を張る道具が伸子で、この張力が強すぎると必要以上の伸びが生じ、元に戻らなくなり、張力が弱すぎると制作時に布が安定

しない。今回は張力の弱い伸子を使用することで緯糸方向の布の伸びを抑え、その代わりに経糸方向の張りを強くすることで、制作時の安定した布の状態を作ることができた。また、今回は染色布の上下にパイプなどを通すのではなく、上辺は木製の平板（厚 10mm 幅 30mm 長 1120mm）を、下辺はステンレスパイプ（直径 10mm 長 1120mm）を巻き込んで接着した。そうすることで染色布だけをよりフラットに展示することができた。ただ上辺の平板につけるヒートンの位置のため、平板が少し前に倒れたようになったので、このヒートンの位置については作品全体の重心を考慮した位置を今後検討する必要がある。

・屏風

屏風については完成までのすべての行程を自分で行うことは難しいと考え、最終の仕立てを表具師に依頼することとした。本研究においてはその依頼に至るまでの準備や染色作業、後処理などをどのように行うのかを研究の対象とした。仕立ての依頼を引き受けてくれた表具師と打ち合わせを行い、仕立て上がりのサイズ、厚さの異なる 2 種の布を用いること、屏風の裏面にも私が染色した布を用いることなどを確認し、注意点やアドバイスを受け制作を行った。染色布を屏風に仕立てる際に必要な巻き込み部分の量や作品画面を確定させるための糸印の付け方など今回の研究を通して得た情報は多い。また、布を張って仕立てる前の土台となる「骨下地」の作り方など資料を用いて説明を受けることができた。完成物からは見えないものを知ることができたことも大きな収穫である。

・板張り

市販されている木製パネルは厚さが 20~30mm 程度あるものが多く、染色布をパネル張りした場合、その側面の見え方が以前より気になっていた。パネル張りのようにしわやたるみなどの要素を全て排除でき、尚且つ一枚があるかのような展示形式はないだろうかと考え、そのひとつの方法としてこの「板張り」を考案した。板張りは 3mm 程度の木製の板に染色布を張る方法で、側面の厚さがなくなる訳ではないが、その存在を極力感じさせないのではないかと考えた。また薄い板のみだと布の張力によって画面に反りが生じるので、板よりも 40~50mm 小さいパネルを裏面に貼り付け補強とした。このパネルの厚さによって、正面からは染色布が壁面より浮いたように見え染色布の存在感を強調できる展示形式となった。